

いきがい・助け合い活動に関する取り組み

大船渡市では、第2層の生活支援コーディネーターを住民が担っています。そのため、地域での人間関係が最初から構築されており、地域の資源や住民をよく理解しているため、地域に合わせた活動となっています。



いきがい・助け合い活動に関する取り組み

【第2層協議体について】

●第2層協議体の設置状況

大船渡市は11の地区に分けられており、2015年12月、蛸ノ浦地区で最初に助け合い協議会が設立されました。そこから約3年半後の2019年4月には、越喜来地区の協議体が設立され、**全ての地区に第2層協議体が設立**されました。



綾里地区助け合い協議会設立の様子

	蛸ノ浦	吉浜	盛	赤崎	日頃市	大船渡	末崎	猪川	綾里	立根	越喜来
設立	H27 12月	H28 6月	H28 8月	H28 10月	H28 12月	H29 2月	H30 8月	H30 8月	H30 8月	H30 12月	H31 4月
SC	女性 2名	男女 各1名	男性 2名	男女 各1名	男女 各1名	男女 各1名	男女 各1名	男性 2名	女性 2名	男性 2名	女性 1名

●第2層協議体の運営

(1) 大船渡市では、**各地区の住民が主体となり運営**しています。協議体の構成は各地区ごとに差はありますが、地区内にある自治組織の長や介護事業所、民生児童委員、警察、消防団、サロン運営者などの多様な人材が参加しています。

他地区のSCを招いての勉強会の様子（綾里地区）



(2) また、**SCについても地域性や人的資源を把握している地域住民が担って**おり、介護保険制度等の理解を深めながら事業に取り組んでいます。



末崎地区の役員会議の様子

●第2層協議体の活動

(1) 基本的にはどの地区もアンケート調査をすることで地域内の高齢者の現状把握をし、その結果に対応した活動や資源開発に取り組んでいます。設立時期によって活動内容の多寡に差異はありますが、**サロンなどの居場所づくりをメインとした活動が多くなります。**

(2) 現在、各協議体自身が感じる課題感としては、**「担い手不足」「サロン参加者不足」「サロンへの男性の参加不足」「サロン実施場所の確保」**といったことが挙げられます。地域の課題としては、**「移動手段の確保」「被災者の移転先でのコミュニティ形成」**など、震災前からある課題と被災地特有の課題がある地域があります。

(3) 今後、地域を良く知るSCを中心とした会議体において、**「軽微な作業の支え合い」「支え合いマップづくり」「ジブント化するための勉強会」**などを進めていく地区が多く、アンケート調査を活かしてこれから進めていくという状況です。

【地区活動ピックアップ】

地区	内容	地区	内容
吉浜	・地域資源の調査と周知。地区内の小売店8店の配達等の状況について広報にて周知 ・地区内サロンの活動状況確認、座談会実施	盛	・緊急時の連絡網作成（サロン参加者） ・高齢者「なやみごと相談所」を開設 ・広報紙「てんじんやま」発行 ・認知症サポーター養成研修会実施
赤崎	・赤崎地区助け合い通信の発行 ・東北電力、社協と連携した高齢者の見守り活動（電気器具清掃活動）の実施	日頃市	・開設しているサロンの活動状況確認 ・住民支え合いマップづくり研修会実施 ・地域内介護事業所を招いての勉強会
大船渡	・サロン活動の立ち上げ支援 ・地域毎の「おはなし会」を開催 ・介護事業所の運営会議への参加	綾里	・他地区の実践内容について学ぶ情報交換会を開催 ・地区内の各地域への生活支援推進員設置

